

資料 「8. 27水害」の概要（旧大信村の記録）

1 主な観測所の雨量（ミ）（平成10年（＝1998年）8月）

観測地点	8/26	27	28	29	30	31	総雨量	最大雨量／h（日時）
隈戸	160	421	79	105	117	9	891	61ミ/h(8/26 18:00～)
町屋	105	203	37	101	87	9	542	40ミ/h(8/27 8:00～)
下新城	42	151	35	110	77	11	429	31ミ/h(8/26 18:00～)
白河市	130	323	65	119	104	104	12	59ミ/h(8/27 8:00～)

※白河市の平年の8月の月間雨量は200ミ、年間平均降水量は1,280ミ

2 被害状況

(1) 河川被害（堤防など）

河川数	10	被害箇所	66	被害額	59億3,520万円
-----	----	------	----	-----	------------

(2) 道路・橋梁被害

区分	箇所数	被害額
道	国道	1 850万円
	県道	8 2億2,030万円
	村道	92 5億5,690万円
橋梁	県道橋	1 1億0,000万円
	村道橋	17 1億0,550万円
合計被害額		9億9,120万円

(3) 水道施設被害

施設数	15	被害額	8,300万円
-----	----	-----	---------

(4) 社会教育施設被害

聖ヶ岩ふるさとの森	100万円
中山義秀ゆかりの家	推定不能 (取り壊し)

(5) 公立学校関係被害

学校・施設名	棟数	被害額
信夫第一小	0	0円
信夫第二小	2	26万円
大屋小	1	8万円
大信中	4	1億2,900万円
給食センター	1	100万円

(6) 家屋の被害

区分	棟数	世帯数	人数
全壊	3棟	3	16人
半壊	2棟	2	11人
一部破損	1棟	1	2人
床上浸水	37棟	30	153人
床下浸水	72棟	67	324人
計	115棟	103	596人

(7) 農林業の被害

区分	箇所数	被害額
農地	238	13億5,600万円
農業用施設	ため池	5 4,800万円
	頭首工	20 3億6,300万円
	水路	162 4億1,200万円
	道路	87 2億8,300万円
	橋梁	10 9,800万円
	揚水機	1 1,800万円
排水施設	5	1億1,190万円
農出物	—	3億8,280万円
山林	—	291万円
林産物	—	615万円
林業施設	—	234万円
林道	6	1億4,100万円
計	—	32億2,322万円

(8) 人的被害

死者	1名
負傷者	重傷 3名 軽傷 1名



(9) 大信中学校の惨状

大信中正面玄関付近



正面玄関前の惨状



土砂が流入した校庭



技術室に向かう通路



土砂が押し倒した樹木



土砂が流入した中央廊下



図書室の本は全滅



土砂崩れ(山頂に向かって撮影)



倒壊した技術室



全壊した体育倉庫



資料 学習指導案

生徒会活動（全校集会）学習指導案（略案）

日時：令和元年10月9日（水）第5校時
場所：体育館 指導者：矢内雄大

- (1) 題材 「自分の住む地域の防災計画を作ろう」
(2) 題材設定の理由・・・(略)
(3) 学習過程

段階	学習活動・内容	時間	形態	○教師の支援	▲評価
活動の 開始	1 前時までの振り返りをする。	5	一斉	○ワークシートを見返して災害発生時の行動の確認をさせる。	
	2 生徒代表からの課題の提示 災害による被害を防ぐために、私たちはどう行動すればよいか？	5	一斉	○前時までの反省を読んだ感想を含めて、生徒代表に話をさせる。	
活動の 展開	3 方部毎に防災計画を作る。 ・班は全18班編成で行う。 ・KJ法により意見を出し合う。 ・話し合いながら、自分たちのすべき行動を紙にまとめる。	30	班	○前時までの話し合いを基に、班の行動を考えさせる。 ○各班のリーダーに司会をさせ、どの班員からも意見が出るように進行させる。 ▲リーダーが班員の意見を吸い上げている。 ○他人の意見は否定せずに取り上げさせる。 ▲班員が進んで意見を出している。	
	4 各グループの防災計画のポスターセッションを行う。 ・発表を前半と後半に分け、持ち時間4分の中で発表と意見交換を行う。	20	班	○質疑応答を行えるように集中して聞かせる。 ▲意見交換の際に感想を伝え合うなど交流を行っている。	
	5 代表のグループが発表を行う。	10	一斉	○よくまとめられている方部をいくつか選び、代表に発表させる。 ○授業を振り返っての感想をワークシートにまとめさせる。	
まとめ	6 授業の振り返りを行う。	4	一斉	▲積極的に話し合いに参加できたかを振り返っている。(ワークシート) ○話し合いの様子について生徒に評価を伝える。	
	7 教師の講評と次時の連絡を聞く。	1	一斉		

「たいしん防災の日」創設の経緯

- 校是「地域に支えられ、地域を支える学校」(平成30年度～)
※地域との関わりの希薄化への懸念
- 創立五十周年事業(平成30年度)で8.27水害に再注目
※多くの卒業生・歴代校長・PTA会長などが述懐
- 県中教研特別活動の会場校として公開授業(令和元年度)
※副主題:「生徒会活動」→方部会&全校集会を公開
(話し合い活動のテーマとして地域防災を取り上げ)
- 防災学習の見直し(「3.11」だけでよいのか)
※大信地域では「8.27」こそ学ぶべきでは?
- 地域と共に創る放射線・防災教育推進事業協力校に指定(令和2年度)

平時に有事を想う・・・

実際の生活に役立つ防災学習を!

- 8.27水害(1998(平成10)年)を知る
自分の住む地域の被害と現在、未来を考える
- 「平時に有事を思う」心構えを育てる
被害の予測、避難経路・避難場所の確認、非常用品の常備・・・
- 地域の一員としての自覚と行動を身につける
地域を知る、地域の大人から学ぶ、地域で役に立つ人になる



資料 各方で考えた碑文

学習のまとめとして、東日本大震災時に人々を救った「姉吉の石碑」のように、後世の人々に残すべき教訓を各方の「碑文」として考えさせた。

「姉吉の石碑」(岩手県宮古市) → 「〇〇の石碑」に託した思い

高き住居は子孫の不幸
 悲し林檎の大津波
 ここより下に家を建てる命
 (中略)
 歳年経るとも是心あれ



「平時に有事を想う」
 「住んでいる地域に役立つ」

実のある防災学習を
 教科によらず、
 地域素材の教材化が大切





各地区の碑文 (順不同)

下新城① 「人間の作ったものはおもらゃ」

隈戸 「災害に備えて役立つ備蓄品」

下小屋① 「防災は事前の準備大切に」

赤坂② 「予想して事前にお買おう非常食」

町屋 「町屋は、雨が降らなければとても平和な所」

堂山・増見 「早く！逃げる！！」

石久保① 「一人ひとりが素早く避難しよう」

中新城・赤坂 「準備は最大の予防策」

赤坂① 「赤坂は高台で安全なため家に居るべし」

下新城② 「「災害なんてないものだ」という気持ちとなくす」

宮・大 「災害が起きたらみんなを力と合わせて乗り越えよう」

田園町府 「災害では一人一人の行動が重要だ」

中沢・豊地 「日頃から防災散歩をしておこう」

下新城③ 「自分の身は自分で守る」

石久保② 「石久保団地の道路の下に家と建てるな」

上新城・後沢 「上新城は大信の中でも安全な地域」

※実際の被害状況により、素早い避難を呼びかける方部、備蓄を呼びかける方部、安全をアピールする方部など、地域による特徴がはっきり出ている。

